

サハリン樺太史研究会
2011年度活動報告書

2016年3月31日
サハリン樺太史研究会

—2011 年度活動報告書—

目次

活動概要

例会・関連シンポジウム等

研究成果刊行物

研究プロジェクト

サハリン樺太史研究会会則・役員

報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。2012 年 1 月までに 2010 年度までの報告書刊行を終えたものの、それ以降は諸般の事情により作成が滞っていた。ここに 2011 年度から 2014 年度までの 4 年度分の活動報告書をまとめて刊行することとした。

2011 年度分以降では、参考資料として非会員の研究動向も日本国内限定ではあるものの掲載することとした。このことによって、日本国内のサハリン樺太史研究全体における本会の位置がより明確になろうし、また本報告書によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと編者として願う。

なお、本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ることをことわっておく。また、会員については本報告書編集時点で本会のメンバーリストに登録している者を指しており、研究成果公表時点では未会員であった場合もあることはご了承いただきたい。

2016 年 3 月 31 日

中山大将

(サハリン樺太史研究会公式HP運営担当者)

—活動概要—

例会テーマの拡大

昨年度の例会の報告テーマは収斂傾向を見せたが、本年度はそれが拡大傾向をみせた。ひとつは、ブル・ジョナサンの引揚に関する報告や、パイチャゼ・スヴェトラナの現状問題としてのサハリン帰国者に関する報告などである。戦後、そして現代が、確実にサハリン樺太史の研究テーマとして提示される時期がやってきた。またもうひとつは、帝国全体の視点からサハリン・樺太を俯瞰し、位置づけるための、他地域研究や政治史の観点からの報告である。

原暉之編著『日露戦争とサハリン島』出版

例会でも報告が重ねられてきたスラブ・ユーラシア叢書『日露戦争とサハリン島』がついに刊行にいたった。ロシア史と日本史双方の研究者が「樺太」の起点となる日露戦争およびその前後のサハリン島をめぐる変動について明らかにした本会の重要な到達点である。ロシア史学会 2011 年度大会では編者の原暉之氏と執筆者の天野尚樹氏、田村将人氏がパネル「日露戦争とサハリン島」を組み研究成果を報告した。

今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ』出版

2009 年度より開始された今西一氏代表の共同研究も最終年度を迎え、その成果として『北東アジアのコリアン・ディアスポラ』が刊行された。本書は韓国安山市故郷の村でのサハリン帰国韓人への共同調査の成果が基礎となっている。

各科研の最終年度を迎えて

本年度は、上記研究成果の刊行のほかにも、本会の両輪のひとつであった今西科研が最終年度を迎えるだけでなく、若手が自ら打ち立てた井澗科研、中山科研も最終年度を迎えるなど、会結成後の四年間に起きた波の最後の盛り上がりとなったと言えるのではないかな。

非会員による研究動向

本年度の活動報告書より参考資料として、非会員による研究成果や研究プロジェクトも掲載することとした。見ればわかるように、非会員の研究成果やプロジェクトの数は、決して会員のものに劣らない。もちろん、非会員の中には単にメーリングリスト登録をしていないだけで、頻繁に例会に出席してくれている人物も少なくないものの、本会会員だけがサハリン樺太史研究を行っている人々ではないことを再認識させられる。

—例会・関連シンポジウム等—

■ 第 16 回例会(北海道大学)

日時:2011 年 5 月 28 日

場所:北海道大学

サハリン古代史の研究:私とサハリンの関わり……………菊池俊彦
ピリチとサハリン島:元流刑囚漁業家にとっての日露戦争……………倉田有佳

■ 第 17 回例会(北海道大学)

日時:2011 年 7 月 16 日

場所:北海道大学

共催:科研基盤研究(B)「北海道多文化共生におけるサハリンからの移住者の役割」

GHQの引揚「物語」と樺太の引揚者……………ブル・ジョナサン(北海道大学大学院法学研究科)

サハリン先住民言語調査体験レポート(2010.4-2011.3):ウイルタの現在

……………山田祥子(北海道大学大学院文学研究科)

サハリン帰国者のアイデンティティと教育の問題

……………パイチャゼ・スヴェトラナ(北海道大学メディアコミュニケーション研究院)

■ 第 18 回例会

日時:2011 年 11 月 5 日

場所:北海道大学文系 6 番教室(軍艦講堂 1 階)

日ソ関係をめぐる後藤新平と幣原喜重郎……………浅野豊美(中京大学)

皇太子の樺太行啓……………池田裕子(稚内北星学園大学)

第 19 回例会・シンポジウム「帝国日本研究の方法と課題」

日時：2011 年 12 月 17・18 日

場所：北海道大学文系 6 番教室（軍艦講堂 1 階）（17 日）・小樽商科大学札幌サテライト教室

第 1 日 2011 年 12 月 17 日（土）・北海道大学文系 6 番教室（軍艦講堂 1 階）

主催者挨拶……………今西一（小樽商科大学）

「小笠原諸島・硫黄島（火山列島）と帝国日本：移動民・入植民から難民へ」……………石原俊（明治学院大学）

コメンテーター……………佐藤由紀（早稲田大学）

司会……………天野尚樹（北海道情報大学）

「ヒトの移動とコロニアリズム：帝国日本を中心に」……………塩出浩之（琉球大学）

コメンテーター……………広瀬玲子（北海道情報大学）

司会……………白木沢旭児（北海道大学）

第 2 日 2011 年 12 月 18 日（日）・小樽商科大学札幌サテライト教室（紀伊国屋書店ビル 3 階）

「荒れ野の六十年（1894-1953）：東アジアの『長い近代』と帝国日本」……………與那覇潤（愛知県立大学）

コメンテーター……………三木聡（北海道大学）

司会……………三木理史（奈良大学）

総括討論

司会……………今西一（小樽商科大学）

書評会：原暉之編『日露戦争とサハリン島』

主催：科研「19～20 世紀北東アジアのなかのサハリン・樺太」

共催：北海道大学 GCOE「境界研究の拠点形成」

後援：科研「国境の植民地サハリン（樺太）島の近代史：戦争・国家・地域」

第 20 回例会

日時：2012 年 3 月 24 日

場所：小樽商科大学札幌サテライト教室

「アメリカにおける日本研究の趨勢」……………デイヴィッド・ハウエル（ハーバード大学）

「K・Kh・ランツベルグ：歴史と文学的リアル（ロシア語）」……………エレナ・アイコンニコヴァ（サハリン国立大学）

「サハリン州における福音主義教会伝道使節 1920～1925 年」……………ナターリア・ポタポヴァ（サハリン国立大学）

国際シンポジウム「海峡をまたぐ歴史」

日時：2011 年 8 月 27・28 日

場所：稚内北星学園大学

第 1 日 2011 年 8 月 27 日

基調講演

「回想・樺太からの引揚」…………… 小林侃四郎(稚内カラフト会会長)

「サハリンにおけるペレストロイカ、そのサハリン史研究に果たした役割」

…………… ミハイル・ヴィソーコフ(サハリン国立大学)

司会 …………… 岩本和久(稚内北星学園大学)

第 1 部 海馬島(モネロン島)の歴史

「日露戦争前後の海馬島(モネロン島)」…………… 山田伸一(北海道立開拓記念館)

「日本北進の歴史におけるモネロン島」…………… イーゴリ・サマーリン(サハリン州文化局)

討論者 …………… 神長英輔(新潟国際情報大学)

司会 …………… 井潤裕(北海道大学)

第 2 日 2011 年 8 月 28 日

第 2 部 海峡をまたぐ歴史

「1920 年尼港事件：悲劇か、それとも計画された煽動か」…………… アレクサンドル・コスタノフ(サハリン州文書管理局)

「北サハリンにおける権力と社会(1917～1920 年代初頭)」…………… マリーナ・グリジャーエヴァ(サハリン州文書管理局)

「皇太子の樺太行啓、1925 年」…………… 池田裕子(稚内北星学園大学)

討論者 …………… 原暉之(北海道大学)

司会 …………… 天野尚樹(北海道情報大学)

第 3 部 地域をつなぐ歴史

「サハリン・ロシア極東・北海道を結ぶ郵便と電信、19 世紀後半～20 世紀初頭」

…………… ミハイル・ヴィソーコフ(サハリン国立大学)

「戦前樺太と道北の地域経済」…………… 白木沢旭児(北海道大学)

討論者 …………… 三木理史(奈良大学)

司会 …………… 今西一(小樽商科大学)

総括討論

司会 …………… 岩本和久(稚内北星学園大学)

主催：稚内北星学園大学

共催：北海道大学 GCOE プログラム「境界研究の拠点形成」

後援：稚内市、猿払村、サハリン・樺太史研究会

—研究成果刊行物—

(五十音順)

相原秀起 日口関係

【定期刊行物】

相原秀起「全国を巡る樺太の展示」『樺連情報』739号、2011年10月1日。

相原秀起「国境標石物語」『別冊環 19 日本の「国境問題」：現場から考える』藤原書店、2012年3月。

天野尚樹 ロシア極東近現代史・北東アジア国際関係史

【論文集】

天野尚樹「見捨てられた島での戦争：境界の人間／人間の境界」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』
北海道大学出版会、2011年10月25日。

天野尚樹「向こう岸の雲の下：日露戦争の終わりとはじまり」『別冊環 19 日本の「国境問題」：
現場から考える』藤原書店、2012年3月。

天野尚樹「個別的愛民主義の帝国」今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ：サハリン・樺太
を中心に』小樽商科大学出版会、2012年3月28日。

【定期刊行物】

Prussakova T. N. (松井憲明・天野尚樹訳)「翻訳 日露間のビザなし交流の歴史から(含 訳者解題)」
『北海道・東北史研究』7号、2011年。

池田裕子 教育史

【定期刊行物】

池田裕子「私立大泊女学校」『樺連情報』743号、2012年2月1日。

板橋政樹 サハリン近現代史

【論文集】

板橋政樹「退去か、それとも残留か：1905年夏、サハリン島民の「選択」」原暉之編著『日露戦争と
サハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。

■今西一 日本近代史

【著書】

今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ: サハリン・樺太を中心に』小樽商科大学出版会、
2012 年 3 月 28 日。

【論文集】

今西一「植民地責任」への旅」今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ: サハリン・樺太を中
心に』小樽商科大学出版会、2012 年 3 月 28 日。

今西一「樺太・サハリンの朝鮮人」今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ: サハリン・樺太を
を中心に』小樽商科大学出版会、2012 年 3 月 28 日。

■尾形芳秀 樺太ポーランド人史研究

【定期刊行物】

尾形芳秀「樺太・サハリンを考えていること」『鈴谷』27 号、2012 年 3 月。

尾形芳秀「昨今の樺太研究について思う—偏見に満ちたソ連の民生局長の手記」『鈴谷』27 号、2012
年 3 月。

尾形芳秀「樺太とポーランドとの関り—ポーランド大統領の使者が来島 1934」『鈴谷』27 号、2012 年
3 月。

尾形芳秀「三つの国の心を持つ男—伝説の通訳と言われた パク・ジュンギョ」『鈴谷』27 号、2012 年
3 月。

尾形芳秀「日露戦争時 樺太戦線での「虐殺」とは？ ロシア軍兵士を虐殺に至った背景には何があっ
たのか」『鈴谷』27 号、2012 年 3 月。

尾形芳秀「樺太とは一体なんだったのだろうか—今もなお未帰属だという 樺太は何処へ」『鈴谷』27
号、2012 年 3 月。

■神長英輔 日露関係史・ロシア極東史

【論文集】

神長英輔「開かれた海の富と流刑植民地: 日露戦争直前のサハリン島漁業」原暉之編著『日露戦争と
サハリン島』北海道大学出版会、2011 年 10 月 25 日。

【定期刊行物】

神長英輔「コンブの道: サハリン島と中華世界」『ロシア史研究』88 号、2011 年 5 月 25 日。

■ 倉田有佳 …………… ロシア極東史・来日亡命ロシア人問題

【論文集】

倉田有佳「ピリチとサハリン島—元流刑囚漁業家にとっての日露戦争」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011 年 10 月 25 日。

■ 玄武岩 …………… メディア学

【論文集】

玄武岩「サハリン残留韓国・朝鮮人の帰還をめぐる日韓の対応と認識」今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ: サハリン・樺太を中心に』小樽商科大学出版会、2012 年 3 月 28 日。

■ 越野剛 …………… ロシア文学

【論文集】

越野剛「20 世紀ロシア文学におけるサハリン島: チェーホフと流刑制度の記憶」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011 年 10 月 25 日。

■ 塩出浩之 …………… 日本政治史

【論文集】

塩出浩之「日本領樺太の形成—属領統治と移民社会」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011 年 10 月 25 日。

■ 白木沢旭児 …………… 日本近現代経済史

【論文集】

白木沢旭児「北海道・樺太地域経済の展開—外地性の経済的意義」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011 年 10 月 25 日。

■ 鈴木仁 …………… 文化史

【定期刊行物】

鈴木仁「南樺太における図書館の歴史: 資料補記」『北の文庫』55 号、2012 年 1 月。

■竹野学…………… 経済史

【定期刊行物】

竹野学「樺太史史料探求の一齣」『樺連情報』734号、2011年5月1日。

■田村将人…………… アイヌ史

【論文集】

田村将人「先住民の島・サハリン：樺太アイヌの日露戦争への対処」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。

■兎内勇津流…………… ロシア中世史

【定期刊行物】

ピウスツキ プロニスワフ著、兎内勇津流訳「サハリン島におけるアイヌの経済生活概説」『環オホーツクの環境と歴史』1号、2012年3月。

プロコフィエフ ミハイル・ミハイロヴィチ著、兎内勇津流訳「2つの論文「サハリン島におけるアイヌの経済生活概説」および「サハリン島における個々のアイヌ村落に関するいくつかのデータについて」の原稿について(アムール地方研究協会のアーカイヴから)」『環オホーツクの環境と歴史』1号、2012年3月。

■中山大将…………… 農林業史・歴史社会学

【論文集】

中山大将「二つの帝国、四つの祖国：樺太/サハリンと千島/クリル」蘭信三『アジア遊学 145 帝国崩壊とひとの再移動：引揚げ、送還、そして残留』勉誠出版、2011年9月。

中山大将「韓国永住帰国サハリン朝鮮人—韓国安山市「故郷の村」の韓人」今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ：サハリン・樺太を中心に』小樽商科大学出版会、2012年3月28日。

【定期刊行物】

中山大将「樺太庁中央試験所」『樺連情報』732号、2011年4月1日。

中山大将「樺太華僑」について『神戸華僑華人研究会 通説』64号、2011年8月31日。

中山大将「樺太移民社会の解体と変容：戦後サハリンをめぐる移動と運動から」『移民研究年報』18号、2012年3月。

■原暉之……………ロシア極東近現代史

【著書】

原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。

【論文集】

原暉之「日露戦争期サハリン島史研究の概観と課題」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。

原暉之「日露戦争後ロシア領サハリンの再定義：1905～1909年」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。

■三木理史……………歴史地理学

【論文集】

三木理史「日露戦後の環日本海地域における樺太：新潟県実業視察団を通じた考察」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。

三木理史「戦間期樺太における朝鮮人社会の形成」今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ：サハリン・樺太を中心に』小樽商科大学出版会、2012年3月28日。

参考資料……………非会員による研究成果刊行物

- 【著書】アイヌ文化振興・研究推進機構編集『千島・樺太・北海道アイヌの暮らし：ドイツコレクションを中心に』千里文化財団、2011年7月。
- 【著書】小牟田哲彦監修『旧日本領の鉄道100年の軌跡：韓国 北朝鮮 台湾 樺太』講談社、2011年11月。
- 【著書】全国樺太連盟編『樺太連盟史』全国樺太連盟編、2011年12月20日。
- 【著書】田澤守編『カラフトアイヌの稚咲内移住に関する研究調査』樺太アイヌ協会、2011年2月。
- 【著書】北海道立北方民族博物館編『ウイльтаとその隣人たち：サハリン・アムール・日本つながりのグラデーション 北海道立北方民族博物館第26回特別展』北海道立北方民族博物館、2011年7月。
- 【論文集】ウルフ デイヴィッド「サハリン／樺太の一九〇五年、夏—ローカルとグローバルの狭間で」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。
- 【論文集】工藤信彦「無いものについて：樺太小考」『別冊環19 日本の「国境問題」：現場から考える』藤原書店、2012年3月。
- 【論文集】沢田和彦「民族学者ブロニスワフ・ピウスツキとサハリン島」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。
- 【論文集】シュラトフ ヤロスラフ「ポーツマスにおけるサハリン—副次的戦場から講話の中心問題へ」原暉之編著『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会、2011年10月25日。
- 【論文集】ディン ユリア著、天野尚樹訳「アイデンティティを求めて」今西一編著『北東アジアのコリアン・ディアスポラ：サハリン・樺太を中心に』小樽商科大学出版会、2012年3月28日。
- 【定期刊行物】会田理人「昭和戦前期の樺太におけるコンブ漁」『北海道開拓記念館研究紀要』40号、2012年3月。
- 【定期刊行物】会田理人「『樺太日日新聞』掲載樺太実業団野球関係記事：目録と紹介」『北海道開拓記念館研究紀要』40号、2012年3月。
- 【定期刊行物】会田理人「北海道-樺太間海底電話ケーブル」『北海道開拓記念館研究紀要』40号、2012年3月。
- 【定期刊行物】池田貴夫「サハリン残留朝鮮人の生活史：境遇としての悲劇、語られる自画像」『生活学論叢』20号、2012年3月31日。
- 【定期刊行物】ヴィソコーフ ミハイル著、松井憲明訳「〔翻訳〕サハリンと千島列島：編年史、1996-2000年」『釧路公立大学紀要（人文・自然科学研究）』24号、2012年3月19日。

- 【定期刊行物】金鎔基「サハリン朝鮮人の戦後史：成點模氏の証言を中心に」『小樽商科大学人文研究』123号、2012年3月。
- 【定期刊行物】福富節男「樺太・サハリンを考えていること」『鈴谷』27号、2012年3月。
- 【定期刊行物】舟山直治「サハリン州郷土博物館所蔵のポンシントコについて」『北海道開拓記念館研究紀要』40号、2012年3月。
- 【定期刊行物】舟山廣治「露谷虹児の樺太時代」『樺連情報』742号、2012年1月1日。
- 【定期刊行物】舟山廣治「樺太庁農事試験場開設初期の試験調査：附 樺太庁農事試験場年表（特集 北海道北方博物館交流協会創立25周年記念号）」『北方博物館交流』23・24号、2012年3月。
- 【定期刊行物】増子美緒「樺太犬の発見：1930年代後半の日本領期樺太を対象として」『Cultures/critiques』3号、2011年8月。
- 【定期刊行物】村崎恭子「話者の絶えた樺太アイヌ語：その終焉と再生の可能性」『社会言語科学』第2巻2号、2012年3月30日。

一研究プロジェクト一

(代表者五十音順)

■朝日祥之 言語学

[新規]朝日祥之(国立国語研究所)「サハリンで形成された日本語樺太方言の多様性に関する社会言語学的研究」科学研究費補助金・若手研究(B)、2011-2013 年度。

■井潤裕 建築史

[最終]井潤裕「旧ソビエト周縁地域における都市空間の歴史的変遷 極東・ウクライナ・中央アジア」科学研究費補助金・若手研究(B)、2010-2011 年度。

■今西一 日本近代史

[最終]今西一「19～20 世紀北東アジア史のなかのサハリン・樺太」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2009-2011 年度。

■白木沢旭児 日本近現代経済史

[単年]白木沢旭児「北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2011 年度。

■中山大将 農林業史・歴史社会学

[最終]中山大将「日本帝国崩壊後の樺太植民地社会の変容解体過程の研究」科学研究費補助金・研究活動スタート支援、2010-2011 年度。

[単年]中山大将「20 世紀樺太・サハリンの移動・運動・交渉史研究のための資料・インフォーマント整備」京都大学若手研究者ステップアップ研究費、2011 年度。

[単年]中山大将「女性人口移動にみるアジア社会主義システムの再編成と親密圏の変容」京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」次世代研究ユニット、2011 年度。

■原暉之 ロシア極東近現代史

[継続]原暉之「国境の植民地サハリン(樺太)島の近代史:戦争・国家・地域」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2010-2013 年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

■ 麓慎一 日露関係史

[新規]麓慎一「東アジアにおける中国海産物市場の形成とアイヌ社会」科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究、2011-2013 年度。

■ 参考資料 非会員による研究プロジェクト

[継続]東俊佑(北海道開拓記念館)「聴き取りと物質文化資料の調査による日本列島北方域の交易変容に関する包括的研究」科学研究費補助金・若手研究(B)、2010-2012 年度。

[新規]大友昌子(中京大学)「東アジアにおける福祉文化的基盤の比較研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2011-2013 年度。

[継続]関根達人(弘前大学)「中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究」科学研究費補助金・若手研究(A)、2010-2013 年度。

[新規]辻原万規彦(熊本県立大学)「戦前期日本における製糖業を支えるネットワークの形成過程と特質に関する研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2011-2013 年度。

[新規]パイチャゼ スヴェトラナ(北海道大学)「北海道多文化共生におけるサハリンからの移住者の役割」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2011-2013 年度。

[継続]宮下雅年(北海道大学)「樺太観光におけるまなざしの形成とマイノリティの表象」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2010-2012 年度。

[新規]麦倉哲(岩手大学)「岩手県内の樺太引揚げ者のファミリーヒストリー 住宅困窮層の実態と支援の比較研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2011-2013 年度。

[最終]村上孝一(北海道開拓記念館)「日本領期における樺太移民文化の民俗学的研究」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2009-2011 年度。

[新規]柳原正治(九州大学)「近世及び近代の日本における「領域」・「国境」概念に関する統合的研究」科学研究費補助金・若手研究(B)、2011-2014 年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

サハリン・樺太史研究会会則

2011 年 5 月 28 日改正

2009 年 5 月 16 日採択

1. 本研究会はサハリン・樺太史研究会と称する。
2. 本研究会は、サハリン・樺太を対象地域とし、主として歴史分野に関する研究の促進と研究者の交流を目的とする。
3. 本研究会は、その目的を達成するために次の事業をおこなう。
 - (1) 定例研究会(例会)・シンポジウムなどの開催。
 - (2) 共同の研究・調査、およびその成果の公開。
 - (3) サハリンの大学・研究機関との交流、情報交換および共同研究の促進。
 - (4) その他本研究会の目的を達成するために適当な事業。
4. 本研究会は、サハリン・樺太の歴史に関心があり、その目的に賛同し、事業に協力する個人の会員からなる。
5. 新年度最初の例会時に総会を開催する。総会は本研究会の最高議決機関であり、総会の議決は原則として出席会員の過半数によって成立する。
6. 本研究会には次の役員をおく。

会長(1名)・副会長(1名)・事務局長(1名)。
- 7.1. 役員選出までは 4 名からなる世話人が研究会の運営にあたる。世話人は役員を互選し、総会の承認を得る。
- 7.2. 新規役員選出は、改選前年度総会において組織される役員推薦委員会が役員候補を推薦し、改選年度総会で選出する。
8. 会長は本研究会を代表し、会務を統括する。
9. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
10. 本研究会に事務局をおく。事務局長は会長・副会長のもとで本研究会の事務全般を担当する。
11. 役員任期は 2 年とする。ただし再任はさまたげない。
12. 本会則は 2009 年 4 月から発効する。本会則の改正は役員協議を経たのち総会の議決による。

サハリン・樺太史研究会役員

2011 年 5 月 28 日選出

会長:原暉之 (再任:二期)
副会長:今西一 (再任:二期)
事務局長:天野尚樹 (再任:二期)

=====

サハリン樺太史研究会 2011 年度活動報告書

発行日：2016 年 3 月 31 日

編集者：中山大將

発行者：サハリン樺太史研究会

[公式 HP] <http://sakhlinkarafutohistory.com/home.html>

お問い合わせは、上記 HP の問い合わせフォームよりお願いいたします。

=====